

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110311331		
法人名	医療法人社団如水会今村病院		
事業所名	グループホーム「かがやきの里」とどろき		
所在地	佐賀県鳥栖市轟木町1574番地		
自己評価作成日	平成26年9月8日	評価結果市町村受理日	平成26年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成26年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体拘束ゼロにむけて、玄関は施錠せずに気軽に家族の方や、地域の方が訪問できるようにしている。庭には花や野菜などを季節に応じて植え替え、季節感を味わえるようにしている。医療機関に隣接しており、緊急時の対応ができる。また、介護員等の痰吸引の施設登録を行い医療度の高い利用者の受け入れもできる。ケアも過去にとらわれず、現在出来る事を活かせるような支援を行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道から少し離れた所にあり、隣接する医療機関と共に、周囲は住宅に囲まれている。敷地内の草木を眺めて少し散歩できるよう、ホームの周囲を遊歩道が巡っているため、入居者の体調に合わせて利用できる。また、1階2階それぞれ落ち着いた環境の中で入居者が生活されている。母体の医療機関との連携や痰の吸引の研修を受けた介護職員も配置され、医療度の高い方でも利用できる。職員は入居者へ寄り添うように働きかけ、それぞれの支援の場での意見やふり返りを通して、その人らしい生活を求めて今を大切にされているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の病院として同じ法人内の施設として、基本理念、行動基準をもとに運営している。カンファレンスで毎回確認している。	地域の病院として同じ法人内の施設として、基本理念、行動基準をもとに運営している。カンファレンスで毎回確認している。	玄関に運営理念を掲示し、カンファレンス時に職員全員で、唱和と振り返りを行っている。入居者や家族に寄り添い、理念が生かされるよう、日々取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あいさつの励行を続け、顔見知りの関係を築けている。	あいさつの励行を続け、顔見知りの関係を築けている。	近隣の方への挨拶等を通じて、交流を行い、民生委員の協力も得ながら、施設理解が深まるよう地域に働き掛けがなされている。しかし、日常的な交流までには至っていない。	地域との繋がりを深め、ホームがより身近な存在となるよう、働きかけの継続と工夫に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護等にたいしての地域貢献はまだできていない	認知症介護等にたいしての地域貢献はまだできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度のペースで行っており、家族の参加者が多い、また、民生委員の参加もあり、取り組みの報告などができている	2ヶ月に1度のペースで行っており、家族の参加者が多い、また、民生委員の参加もあり、取り組みの報告などができている	会議には家族の方もよく参加され、それぞれが意見を出されている。会議ごとの報告案内により理解を深めていただき、サービス向上に反映させる働きがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らない事な、積極的に担当者にたずねている。	解らない事な、積極的に担当者にたずねている。	市の担当窓口へ出向いての相談や質問をされ、実直に対応を得ており、円滑な関係作りがなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設玄関は夜間のみ施錠。毎月のカンファレンスで、必要性を確認しまた解除出来ないか、また拘束が必要であれば最小限にする努力をしている。	2階のドアの施錠はせず、見守りとドアの開閉時のセンサーの設置で対応している。帰宅願望のある利用者には行けるとこまで一緒について歩いている。	職員研修やカンファレンス等で、全員が拘束について学び、意識を高めている。一部身体拘束を行っているが、経過も記録し、拘束のない支援に向けて検討もしている。	入居者の心身状況に配慮しながら、引き続き拘束に頼らない支援の検討に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待の芽」のアンケートを一年に一度行い、みずからのケアを見つめなおす機会にしている、また、研修に参加をしたスタッフは報告を行っている	「虐待の芽」のアンケートを一年に一度行い、みずからのケアを見つめなおす機会にしている、また、研修に参加をしたスタッフは報告を行っている		

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	居宅支援センターの職員から勉強会の開催を頂き学ぶ機会を作っている	居宅支援センターの職員から勉強会の開催を頂き学ぶ機会を作っている。また、家族管理の厳しい方には後見人をすすめている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、またはケアマネジャーが必ず契約書を全文を読み上げ、その都度不明点を聞きながら行っている	管理者、またはケアマネジャーが必ず契約書を全文を読み上げ、その都度不明点を聞きながら行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置している、運営会議にも質問等をうけて報告も行っている	玄関入口に意見箱を設置している、運営会議にも質問等をうけて報告も行っている	挨拶や言葉掛けなどに気をつけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。面会や電話等の機会、職員が積極的に家族の意見要望を聞いている。便りでも報告を行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで意見を出し合い、改善に努めている	カンファレンスで意見を出し合い、改善に努めている	職員全体が、積極的に意見が出せる職場環境となるよう配慮しながら、カンファレンスで出された意見を検討し、運営に取り入れる取り組みがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回は個人面談を行いスタッフの目標設定を明確にしている。	年に2回は個人面談を行いスタッフの目標設定を明確にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力に応じて研修の参加を促している。	個人の能力に応じて研修の参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に加入し、また協議会メンバーとして活動をしている	GH協議会に加入し、また協議会メンバーとして活動をしている		

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者または家族に入居前に十分な説明を行い施設見学をすすめている	入居希望者または家族に入居前に十分な説明を行い施設見学をすすめている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡を密にとり、入居者の状況を報告し、家族に要望も取り入れられるケアに修正している	連絡を密にとり、入居者の状況を報告し、家族に要望も取り入れられるケアに修正している			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人の意見を聞きまた、その反応を見てから今まではこうであったなどの先入観にとらわれず、柔軟に対応している	家族、本人の意見を聞きまた、その反応を見てから今まではこうであったなどの先入観にとらわれず、柔軟に対応している			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんでもらったりして、生活をともにしているという雰囲気を作っている	洗濯物をたたんでもらったりして、生活をともにしているという雰囲気を作っている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の状態の報告を行い、行事や会議に参加を進めている	面会時には本人の状態の報告を行い、行事や会議に参加を進めている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスに訪問して、少しではあるが交流を持てるようにしている	入居前は入院している方が多く、関係維持まではできていない	入居者の身体状態に合わせて外出したり、馴染みの人が訪問されて来た時は、なごやかに話ができる場を設けるなど、関係が途切れないよう支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴がありあいさつしても会話が成り立たず、「無視された」などと思われぬようにスタッフが関係性をもたせるようにしている	レクレーションをしながら、コミュニケーションを図っている			

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所になった方や家族とお会いできた時には挨拶をしている。また、亡くなった年度には初盆参りをおこなっている	退所になった方や家族とお会いできた時には挨拶をしている。また、亡くなった年度には初盆参りをおこなっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランは定期的に確認し、必要があれば修正をしている	ケアプランは定期的に確認し、必要があれば修正をしている	リラックスしている時間や、日々の関わりの中から、入居者の言葉や動作から思いを推し測り、意向の把握が行われている。把握が困難な方は、家族等から情報を得て、職員で検討しながら、意向の把握がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と回想しながら、経過を聞いたり、困難な場合には家族にお話を聞いたりしている	本人と回想しながら、経過を聞いたり、困難な場合には家族にお話を聞いたりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の観察をし、スタッフ間にも周知するようにしている	状態の観察をし、スタッフ間にも周知するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー、計画作成担当者を中心にスタッフの意見を聞き取り、計画に反映している	ケアマネジャー、計画作成担当者を中心にスタッフの意見を聞き取り、計画に反映している	日頃の関わりの中で、本人・家族から意見や思いを聞き、職員の日々の報告等を基に内容を振り返り、検討している。主治医とも連携しながら、現状に即した計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、個人差があるのでカンファ等で記録の勉強会などを行っている	記録については、個人差があるのでカンファ等で記録の勉強会などを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日などには、本人の好みの食事など外食したり、自宅への送迎を行っている	誕生日などには、本人の好みの食事など外食したり、自宅への送迎を行っている		

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際には、地域のボランティアなどよんでいる	行事の際には、地域のボランティアなどよんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関と連携している	関係医療機関と連携している、また、外部の医師の往診もある	本人・家族の意向に沿った受診の支援がなされている。往診や受診の支援を行い、その都度家族へ報告し、関係医療機関との連携も取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の把握につとめ、担当医との連絡をとり、指示を仰ぎ、悪化防止につとめている	状態の把握につとめ、担当医との連絡をとり、指示を仰ぎ、悪化防止につとめている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、スタッフは毎日面会し、病棟スタッフから情報収集している	入院中は、スタッフは毎日面会し、病棟スタッフから情報収集している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にあらかじめ、終末期についての希望や施設で可能な看取りについての説明を行っている。また、状態に応じ家族に密に説明をして、記録に残している	入居時にあらかじめ、終末期についての希望や施設で可能な看取りについての説明を行っている。また、状態に応じ家族に密に説明をして、記録に残している	重度化や終末期について、ホームの方針や出来ることを十分に説明している。本人の状態に応じ、家族・主治医と都度話し合いが行われている。介護職員等の痰の吸引の登録もされており、医療度が高い方へも対応できる体制を作られている。また、看取りの支援を通じて、職員の終末期への取り組みの意識を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法などを確認している	緊急時の連絡方法などを確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。また、オムツなどの備えをしている。地域の協力はまだとれていない	年に2回の避難訓練を行っている。また、オムツなどの備えをしている。地域の協力はまだとれていない	火災避難訓練は年2回夜間を想定して行われている。その他、非常食の準備など災害への備えがなされている。しかし、全ての夜勤勤務職員の火災避難訓練参加までには至っていない。また、地域との協力体制作りもこれからである。	全ての夜勤勤務職員が、火災避難訓練を行い、夜間の避難対応への備えと、意識を高めることが望まれる。また、安全に避難誘導ができるよう、地域協力が得られる体制作りを進められることも望まれる。

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴などには特に気をつけている	トイレや入浴などには特に気をつけている	個々の人格に配慮した、さりげない対応が行われている。言葉掛けへの注意や、気づきを職員全体が共有し、入居者の尊厳や誇りを損ねない、支援に努められている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	決断しやすい質問の仕方をしたり、身振り手振りでコミュニケーションしている	決断しやすい質問の仕方をしたり、身振り手振りでコミュニケーションしている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課はあるが、本人の希望をききながら、体調もあわせて行っている。	ホームの日課はあるが、本人の希望をききながら、体調もあわせて行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあわせた洋服を調整している。	季節に合わせた洋服を調整している。また、マニキュアなどのおしゃれを楽しんでいる			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の咀嚼の能力にあわせて、硬さをかえている	入居者の咀嚼の能力にあわせて、硬さをかえている	入居者の食べる力に合せた献立や、食事の準備に可能な限り参加してもらい、おやつ作りも一緒に行われている。その他、個別の外食や、畑での野菜作りなど、楽しめる食事の支援がなされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者と契約し、福祉メニューにしている。一律にせず、個人にあわせたボリュームにして、食欲をなくさないようにしている	業者と契約し、福祉メニューにしている。一律にせず、個人にあわせたボリュームにして、食欲をなくさないようにしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている、残菌や歯茎の状態に合わせて道具も変化させている	毎食後、口腔ケアを行っている、残菌や歯茎の状態に合わせて道具も変化させている			

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ、トイレの排泄にこだわり介助を行っている	できるだけ、トイレの排泄にこだわり介助を行っている	介護度の重い方も含め、それぞれの排泄の傾向をチェック表で確認し、トイレへ誘導されている。排泄の自立や継続ができるよう、日々取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らないように、おやつメニューを工夫し、水分摂取を苦痛なく行えるようにしている。また、排便のチェックを行い早期に対応している	薬に頼らないように、おやつメニューを工夫し、水分摂取を苦痛なく行えるようにしている。また、排便のチェックを行い早期に対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	同性介護がよいという方もいるので、できるだけ希望に沿うようにしている	同性介護がよいという方もいるので、できるだけ希望に沿うようにしている	週3回を入浴日としているが、その他の日でも入浴することはできる。入居者の希望や体調により、入浴の時間や順番、同性での介助など、個々に応じた支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の方もいるので、無理強いはせずに昼間も休めるようにしている	昼夜逆転の方もいるので、無理強いはせずに昼間も休めるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の方の服薬管理を行っている。臨時薬などがスタッフ全員にわかるようにノートを活用している	全員の方の服薬管理を行っている。臨時薬などがスタッフ全員にわかるようにノートを活用している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望にそうレクレーションを経過している	希望にそうレクレーションを経過している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望の方には、納得するまでついて行く等している。気分転換に買い物などの援助もしている	帰宅願望の方には、納得するまでついて行く等している。気分転換に買い物などの援助もしている	ホームに庭は遊歩道が設けられ、気軽に散策できる。入居者のそれぞれの要望に沿って、散歩や外出をしたり、季節の花を見に出掛ける等、戸外に出る機会を作り、外出を楽しめるよう努められている。	

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を少し持っている方もいるが、基本的には個人持ちをしていない	小銭を少し持っている方もいるが、基本的には個人持ちをしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を聞きながら、自宅に電話などしている	本人の希望を聞きながら、自宅に電話などしている。また一人は携帯電話をもっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は今まで使用していたタンスなどを持ってきていただくようにしている	入居の際は今まで使用していたタンスなどを持ってきていただくようにしている	窓も大きく、明るいいリビングである。季節を感じる飾り付けや、座席の配置、職員も穏やかな声かけにも配慮し、居心地良く過ごせる配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を工夫し、過ごしやすい工夫をしている	ソファの位置を工夫し、過ごしやすい工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は今まで使用していたタンスなどを持ってきていただくようにしている	入居の際は今まで使用していたタンスなどを持ってきていただくようにしている	本人の身近な物や思い出の品を持ってきていただいたり、居室のレイアウトは自由にしてもらい、その人らしい居室作りを工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子を自走する、タオルをたたむなど、小さなことでもできるように声掛けしている	車椅子を自走する、タオルをたたむなど、小さなことでもできるように声掛けしている		